

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第4部門第1区分

【発行日】平成27年11月5日(2015.11.5)

【公開番号】特開2015-165074(P2015-165074A)

【公開日】平成27年9月17日(2015.9.17)

【年通号数】公開・登録公報2015-058

【出願番号】特願2014-40308(P2014-40308)

【国際特許分類】

*E 02 D 5/08 (2006.01)*

【F I】

*E 02 D 5/08*

【手続補正書】

【提出日】平成27年8月4日(2015.8.4)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

両端に主爪と副爪からなる継手部を有する直線形鋼矢板であって、  
継手の主爪高gが6.0mm以上、主爪厚f3とウェブ部板厚f1の比f3 / f1が0.82以上、副爪厚f2とウェブ部板厚f1の比f2 / f1が1.16以上、継手開口高さcと主爪厚f3との比c / f3が1.25以上であり、ウェブ部の中心位置から副爪部の最外縁までの距離h(有効高さ)が40mm以下であることを特徴とする直線形鋼矢板。

【請求項2】

両端に主爪と副爪からなる継手部を有する直線形鋼矢板であって、  
継手の主爪高gが6.0mm以上、主爪厚f3とウェブ部板厚f1の比f3 / f1が0.82以上、副爪厚f2とウェブ部板厚f1の比f2 / f1が1.16以上、継手開口高さcと主爪厚f3との比c / f3が1.25以上であり、ウェブ部の中心位置から副爪部の最外縁までの距離h(有効高さ)が37mm以下であることを特徴とする直線形鋼矢板。

【請求項3】

直線形鋼矢板により構造物の周辺を囲んで補強する構造物の補強構造であって、  
請求項1又は2の直線形鋼矢板により、前記構造物と前記直線形鋼矢板壁との近接距離が200mm以下となるように前記構造物の周辺を囲み、前記直線形鋼矢板と前記構造物との隙間に補強鉄筋を配置するとともに固化材を充填してなることを特徴とする構造物の補強構造。

【請求項4】

直線形鋼矢板により構造物の周辺を囲んで補強する構造物の補強方法であって、  
請求項1又は2の直線形鋼矢板により、前記構造物と前記直線形鋼矢板壁との近接距離が200mm以下となるように前記構造物の周辺を囲む工程と、前記直線形鋼矢板と前記構造物との間の土砂を除去する工程と、前記直線形鋼矢板と前記構造物との隙間に補強鉄筋を配置するとともに固化材を充填する工程とを備えたことを特徴とする構造物の補強方法。